

***金子天文台の機材を国立天文台に譲渡—その2—**

アーカイブ室新聞第740号(2014年7月14日)に「金子天文台の機材を国立天文台に譲渡-その1-」という記事を書いた。金子天文台を主催されていた金子功氏が2009年にお亡くなりになり、5年を経て金子夫人が金子天文台に出入りの天文仲間が保管していた機材を整理するというので、金子さんの創意工夫を凝らした機材を国立天文台に譲渡して頂くことになった。その一切を筆者が受け取った。前号ではリストアップできるような機材について報告したがこの号では、リストアップしにくいものについて報告する。保管されていた研究棟と呼ばれる建物にあったものをほとんどすべてトラックに載せて三鷹の国立天文台に運んだ。それらの中には今後使用することはないと思われるものもあったが、それらの扱いはまかせていただいた。それらはコンテナ、段ボール箱などに入っていないものは運送屋の組み立て式コンテナに入れ運ばれた。それらをいろいろな大きさのコンテナ、段ボール箱に入った状態と床に並べた状態で写真に撮った。リストアップしにくいということは、名前を付けづらい種々多数のものということである。順不同で載せていきたい。



写真1



写真1-2



写真2



写真2-2



写真 3



写真 3-2



写真 4



写真 4-2



写真 5



写真 5-2



写真 6 (これは前号のリストにある)



写真 6-2



写真 7



写真 7-2



写真 8



写真 8-2



写真 9



写真 9-2



写真 10 ペンレコ



写真 11 前号のカメラ-18)の箱



写真 12



写真 12-2



写真 13



写真 13-2



写真 14



写真 14-2

写真で見るように、名前がつくものもあるが、何しろ点数が半端ではないので、名前を書いたリスト作りをやる気になれなかったものである。

ここまですでに14箱である。更に10箱がある。



写真 15



写真 15-2



写真 15-3



写真 16



写真 16-2



写真 17

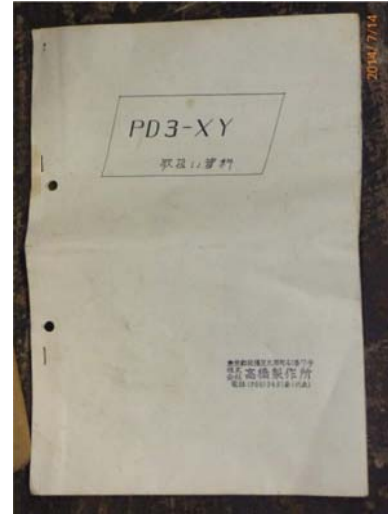


写真 17-2



写真 17-3



写真 18 前号の小物の 11)



写真 19



写真 19-2



写真 20



写真 20-2



写真 21



写真 21-2

これらの中には、まだ使用できるものもある。金子氏の長い間の健闘ぶりが思われる品々である。しかし、こういった部品類を有効に使う人がいるかということ、やはり金子氏のような人でなければ、おそらくただのゴミということになってしまう。

筆者は、物が捨てられない性質で、これらをなんとか有効利用しようとするであろう。少なくとも、どんなものがあるのか興味を持つ人が現れることを願って、これからはばらくは保管しておこうと思う。



写真 22



写真 22-2



写真 23



写真 23-2



写真 24

これらが写真 24 のように積み上げられている。容器の総数で 24 個になっている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp